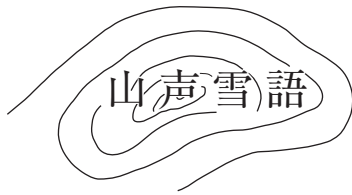


# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2722回 山城町 三上山	9月12日(土) 集合 AM9:00 竹田駅西口	吉田 武	竹田駅～R1久御山～R24山城町開橋東詰～神蔵寺～鳴子川林道…三上山往復～R24～R1～竹田駅解散
備考 希望者は担当者まで連絡ください。			
第2723回 丹後 依遅ヶ尾山	9月22日(火・祝) 集合 AM8:00 竹田駅西口	井戸 澄夫	竹田駅～京都南IC(名神・京都縦貫道) 宮津天橋立IC～R482～清水・登山口…依遅ヶ尾山往復～帰路
備考 全通した京都縦貫自動車道を通ります。日本海が美しいです。帰路、温泉入浴します。			
第2724回 津田氏米寿記念登山 湖東 津田山 (長命寺)	10月10日(土) 集合 AM8:00 竹田駅西口	大倉寛治郎 清水 康裕	竹田駅西口～京都南IC～(名神高速)～蒲生IC～(湖岸道路)～長命寺…津田山往復…長命寺～京都解散
備考・津田 實 氏 米寿記念登山です。長命寺でセレモニーを行います。所縁の方は是非参加してください。 ・参加費2,000円程度(記念品代500円, 交通費を含む) ・希望者は担当者まで連絡してください。 ・記念品のみ希望の方は、担当 清水まで連絡してください。			
第2725回 鍋尻山(838.2m)	10月12日(月・祝) 集合 AM8:00 竹田駅西口	吉田 武	竹田駅～京都南IC(名神)～彦根IC R307久徳～河内風穴…鍋尻山往復～河内風穴見学～彦根IC～竹田駅解散
備考 希望者は担当者まで連絡ください。			
<b>9月の集会(河村氏卒寿祝い)</b> 日時 9月9日(水) 18:30～ 場所 四条烏丸下「かごの屋」		<b>9月の企画運営委員会</b> 日時 9月25日(金) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズカフェ)	
<b>10月の集会</b> 日時 10月7日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズカフェ)		<b>10月の企画運営委員会</b> 日時 10月21日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズカフェ)	



今年の夏も暑い。(暑かったというべきか?) 地球温暖化が進み、世界中で観測史上初の暑さを記録している。温暖化の地球環境に与える影響は数多く指摘されているが、最も重大なのは両極地方の水が溶けて海水面が上昇することであろう。京都も縄文時代のように伏見あたりまで海が侵入してくるかもしれない。温暖化の原因はもちろん化石燃料の大量利用の結果であるが、それを阻止しようという努力は各国の利害がからみ遅々として進まない。ハーディングという学者の「コモンズの悲劇」という理論があり、それによると環境資源から得られる利益と枯渇することによる損失は前者が常に大きいので、結果として資源が枯渇するまで環境破壊は進むということらしい。環境問題に関する人々の関心は高いものがあり、自然保護・環境保護に反対する人はいないといつてよいが、こと自己の利害が絡むと問題は別ということだろう。

夏は北海道の人气が高い。温暖化で暑くなったとはいえ、北海道は京都に比べれば確実に涼しい。ということで7月初旬に北海道旅行し、山は利尻岳と羊蹄山に登ってきた。

小生が初めて北海道を旅行したのは、今から45年前の大学2年生の夏である。当時、若者達は大きなザック(キスリング)を担いで北海道を旅するのが流行った。彼らは国鉄の駅で野宿したり、ユースホテルで泊まったりしながら旅をし「カニ族」と呼ばれた。たいがい一人旅であった。小生も国鉄の北海道内均一周遊券を購入し、長髪・下駄履きのカニ族スタイルになって、函館・札幌・十勝・襟裳・根室・知床・網走などを20日ほどかけて回った。山登りも羅臼岳と大雪山に登った。羅臼岳には岩尾別から羅臼へ知床半島を横断した。当時流行していた加藤登紀子の「知床旅情」を口ずさみながら登った。大雪山は旭岳から黒岳を縦走したが、何故か一匹の柴犬が僕の前をずっと先導してくれた。迷わないように、あるいは熊に出くわさないように守ってくれたのだと思う。一回りしてからは、さらに1ヶ月ほど札幌で住み込みのアルバイトをして、夏休みが終わってから京都に戻った。

就職してから北海道へは何回か旅行したが、勤務の都合もあり短期のツアー旅行であった。京交山岳部35周年記念登山(1984年、利尻岳・大雪山)も勤務の都合で参加できず残念であった。今回は仕事の拘束もなく、私事都合もほとんどない身となり、北海道のまだ行ってないところを、女房と伴にゆっくりとマイカーで旅した。舞鶴からフェリーで小樽に行き、留萌→羽幌→サロベツ→稚内→利尻→礼文→宗谷→紋別→サロマ湖→旭川→富良野→余市→羊蹄→積丹のルートで回った。天候はあまりよくなかったが、利尻岳と羊蹄山に登ったときは晴れてくれた。今回は北海道の北部を主に行ったが、各町村に必ず道の駅があり、立派な施設(温泉等)も併設され、地域起こしの拠点にしようという意欲が感じられた。また道の駅には日本全国のナンバーを付けた車が停まっており、道の駅に寝泊りしながら旅行している人々も多かった。最近、道の駅で宿泊する人々のモラル低下をテレビなどで指摘されている。特にゴミ廃棄とトイレの使用に関する問題が多い。一部の人であろうが、無料のオートキャンプ場と勘違いしている人もいるようで、そのうちに道の駅は夜間立ち入り禁止になるかも知れない。念願であった利尻岳と羊蹄山に登れたのは嬉しかったが、いずれも1,500mの標高差を登り下りするもので極めてキツかった。女房も登りはよいが下りでは痛めているヒザへの負担が限界にきていた。山以外では、積丹半島の海の青さが印象的であった。オホーツクの海が暗くくすんだ色合いであるのに比べて、積丹の海は積丹ブルーといって地中海に例えられており、晴れた日には空の青さと溶け合い底抜けに明るい。

(2015. 8. 15. 文責 S. I.)

## 夏山大会 南アルプス 聖岳・光岳

烏丸 山下 幸 宏

今回で聖岳、光岳への挑戦は3回目である。1度目と2度目は易老渡までの林道が通行出来ず、仕方なく樫島へ行き聖岳手前での初冠雪、また茶臼岳で大雨の為断念した。今回3度目で当初から予定していた易老渡からの登山が出来た。易老渡に着いただけでほっとした。

7月31日夕方、三条京阪で井戸さんと待合わせ、私の車で出発。夜中12時頃易老渡に到着（標高890m）、駐車場はほぼ満車状態であり朝まで仮眠する。

8月1日5時25分、光岳に向かって出発。天候は晴れで気温は20度くらいだっただろうか、結構暑い。駐車場から30m程戻り小さな橋を渡って登りだす。いきなり急登で始まり面平という所を通るが巨木がたくさんあり感動した。また他の登山者と数分会話しながら歩いたので井戸さんとの距離が開きすぎ、私はしばらく待つ。ひたすら急登が易老岳（2,354m）まで続いた。山頂は展望もなくハエか何かわからないがたくさん飛んでいて手や足に噛みつく感じでしばらくすると虫さされみたいな赤いブツブツが出てきた。簡単に昼食を済ませハエが不愉快なので歩き始める。いくつかの小ピークを越し、やがて三吉平に着く。さらにかれ沢を登りダケカンバの間を通り、静高平に出る。イザルヶ岳からの湧水であろうか豊富に湧き出ている。「うまい」の一言。周りにお花がたくさん咲いている。天国みたいだった。ここで水を補給しないと小屋ではもらえないと看板に書いてある。ここから少し進むとセンジヶ原に出て木道が敷かれていた。この辺りでゴロゴロがひどくなり一発ドカーンと鳴り急いで小屋に駆け込んだ。受付中に井戸さんが到着、説明を聞き終わって早速持参したビールを飲み始める。もちろん静高平の水場で冷やしているのどうまい。アジの干物を炙り一杯やる、最高だ！素泊まりなので時間を気にせず消灯までたっぷりある。途中面平付近で出会った人とテーブルが一緒になり楽しく話ながら時間は過ぎていき、その時突然ダブルの虹が南東の空にかかった。写真を撮る人見る人でワイワイ騒いでいた。やがてゴロゴロもおさまったので今のうちに光岳に行く事にした。17時40分光岳（2,591m）到着、何の特徴もない山頂。さらに光石へ向かう。10分程で着いた。岩の上部まで登れ南ア深南部の眺望は最高であった。夕日を浴びた光石は輝き美しかった。小屋に戻ったのは18時50分頃であり、ほとんどの人は寝る体勢に入って、私達も準備して満員の小屋で寝る。

8月2日3時35分起床、4時には出発、イザルヶ岳（2,540m）へ向かう。天候は引き続き晴れでご来光が拝めるからだ。小屋よりイザルヶ岳のほうが良いと従業員に言われ、その従業員も仕事をさぼって一緒に行った。15分で到着、もうドラマは始まっている。私は急いで三脚にカメラをセットし撮影開始、ひたすらシャッターを切る。4時53分布引山右側から太陽が昇り、空の色が濃い紫→青→朱色に変化する。カメラのモニタ画面ではやはりわかりにくいので、念の為RAW プラスJPGで撮影した。結局5時までいたので時間がかかりすぎた。最後に水を補給したので5時30分の出発となった。前日来た道を戻り易老岳で私は朝食を済ませた。そして茶臼岳方面の縦走路に行く。起伏の少ない稜線歩きがしばらく続き希望峰手前から少しの間急登になり汗が噴き出す。希望峰から見る茶臼岳はすごく雄大だ。仁田岳は時間がないのでスルーし、さらに歩き仁田池を右手に見ながら木道に行く。昨年雨の中を登った茶臼岳（2,604m）に到着、畑薙第一ダムが大きく目に入る。ここで昼食、かなり疲れてきたし苦痛にも感じ、景色も見る余裕もなくなる。次のピークである上河内岳がさらに大きくそびえ立つ。茶臼小屋分岐を過ぎ緩やかな上り坂、天然記念物の亀甲状土になりこれを保護す

る為木道歩きになる。竹内門付近からきつい登りになり、上河内岳肩に着くが山頂のガスがひどいのでスルーした。本日最後のピークである南岳、尾根の東側をトラバースで通過し、下がったコルのお花畑が美しかった。ハイマツに覆われた南岳(2,702m)を下り、左側はガレ場で崩壊した登山道を歩く。すると雷鳥親子2羽が現れ一緒に後をついて行く。写真、動画で撮影、あつという間にハイマツの中へと姿を消した。疲れが一瞬吹き飛んだ。さすがに2日目、さらに疲れて聖平小屋にたどり着いた。早速小屋横の沢の水で体をふき、夕食を済ませる。ここも素泊まり、小屋で売ってるビールは安かった。350ML 2本で500円、しかもスーパードライ！最高。

翌日8月3日も天候は晴れ。早い人で早朝3時に聖岳に向かって出発していた。私達は4時20分に出発、薊畑分岐で朝食。昨日縦走してきた上河内岳、茶臼岳方面は雲海上にそびえたっている。いくつかの小ピークを越し富士山を右手に見ながら進みダケカンバからハイマツの斜面に変わって小聖岳(2,662m)。聖岳が大きく横たわっている。いよいよ砂礫の大斜面をジグザグに登ってやっと聖岳(3,011m)到着。遮るものは一切なく360度の大展望、赤石岳が目の前に見え、2002年7月20日吉田武さんと赤石岳に登ったのを思い出し感動した。私は奥聖まで行かずゆっくり景色を楽しんでいた。50分山頂で過ごしたのち、下山した。再び薊畑分岐まで戻り、シラビソ林の間を通り急斜面を下りコースタイム通り西沢渡に着いた。足はガクガクで死にそうだった。立派な渡し籠があったが横にはしごが掛けられておりそれを渡った。便ヶ島までしっかり歩き、車を止めている易老渡へ行く途中、軽トラックが私の横に停まり荷台に乗れ乗れと合図をする地元のおじいさんだろうか、せっかくのご厚意だから素直に乗せてもらった。易老渡にたくさん登山者がいて私達の姿をうらやましそうに見ていた。おじいさんにお礼を言い別れた。そして予約していた遠山郷の宿へ向かい、隣接されているかぐらの湯で汗を流し、おいしい地元の食材を使った夕食を食べ、翌日京都に戻った。あつという間の山旅であった。今回、この時期に聖・光岳に登れてとてもよかった。光岳で出会ったPさん、今後私の山登り人生を変える人物であるかもしれない。

#### [コースタイム]

(7月31日)

17:00京阪三条集合—京都東IC(名神・中央道)(大津SAで夕食)—22:00飯田IC—矢筈トンネル—R152—上村—24:00易老渡(車中泊)

(8月1日)

4:40起床(朝食) 5:25易老渡登山口(890m) …7:20面平(1,445m) 7:35…10:50小ピーク(3等△2,254m) …11:30易老岳(2,354m, 昼食) 12:00…13:10三吉平(2,200m) 13:20…14:40静高平(水場) 15:00…15:30光小屋(夕食) 17:30…17:40光岳(△2591.1) …18:00光岩…18:50光小屋(泊)

(8月2日)

3:55起床4:00…4:20イザルガ岳(日の出, 朝食) 5:00…6:20三吉平6:30…7:40易老岳8:00…8:45小ピーク(2,352m) 8:55…10:00希望峰(仁田岳分岐, 2,500m) 10:10…11:05茶臼岳(2,604m, 昼食) 11:40…12:00茶臼小屋分岐…13:50上河内岳分岐(2,750m) 14:00…14:40南岳(2,702m) 14:50…16:00聖平小屋(2,300m, 泊)

(8月3日)

4:00起床4:20…4:45薊畑(朝食) 5:00…5:50小聖岳(2,662m) 6:00…7:25前聖岳(3,011m) 7:55…8:45小聖岳8:50…9:25薊畑9:50…13:30西沢渡(1,100m) 13:40…14:20便ヶ島14:35(途中で軽トラに便乗) 14:40易老渡—16:00遠山郷(かぐら山荘)

(8月4日)

かぐら山荘8:20—中央道・名神（途中，買物・昼食）—14:00京都宇治—山下自宅14:40

[参加者] 山下幸宏，井戸澄夫



【個人山行】 H27.7.13～7.17

## 暑寒別雨竜沼湿原・大雪山裾合平・岩木山

木 原 滋

昨年は足元がたよりなくなっていて、もう山歩きは出来ないと思っていました。しかし、暖かい季節になると、「どこか？へ行きたい。」気持ちが強くなってきました。花が美しい山で、何回か計画しながら、遠かった所の「暑寒別の雨竜沼湿原」が今年の計画となりました。

久しぶりに出会った、学生時代にハイキングで御一緒した友人のA君が、「山歩きをしている。」と言っていたので、夏に暑寒別と大雪山に行く計画があると提案すると、「行きたい。」と返事がありました。「北海道まで行くのなら、帰りをJRにして、岩木山にも登りたい。」との希望があって、4泊5日の計画になりました。

7月13日（月）10時05分、伊丹空港発で出発。11時55分千歳。滝川からバスに乗り16時57分雨竜町で下車。予約した安田旅館は広いバス道路の向い側で、明日14日予約の雨竜ハイヤーもすぐ近くです。

7月14日（火）大きいリュックを預けて行きたいので、少し早く雨竜へハイヤーに行き、7時に出発しました。南暑寒荘まで約40分かかりますが、雨竜ダムから奥はペニケベタン川に近い森の中をかなり長く走ります。以前はこの道路の両側が開拓農地で、小学校が2校と中学校もあったとのことでした。

南暑寒荘は大型バスが何台も止められる広い駐車場の大きな建物で、食料、シュラフ等を持参すると、雨竜沼湿原から南暑寒別岳1,296.4m、暑寒別岳1,491mへ登って、増毛町へ行く事が出来るので、30歳頃はこのコースを歩く計画でした。

入山届を出して8時に出発。第一吊橋までは車が通れる道で、ここから渓谷沿いの登りになります。昨夜の雨で滑り易くなっていますが、いろいろな花が咲いているのを写しながら、白竜ノ滝、第二吊橋と急な登りを2時間余りで雨竜沼湿原入口に来ることが出来ました。

私達の予定では、この季節には一面にエゾカンゾウとワタスゲが咲いているはずでしたが、「一週間ほど前の強い低温による霜の為に、咲きかけていたエゾカンゾウの花がダメになった。」と言う地元の話がありました。それでも広大な湿原の沢山の沼には、ウリユリコウホネ、その他の多種類の花が咲いていて、曇っていても雨には降られず、12時に南暑寒別側への登りになる手前で折り返す事にしました。時々には青空になり、日光も差して来て、暑寒岳も姿を見せる湿原を後にして、13時には下り道に入りました。

A君は靴がドロロンコになる、スベリやすい急な下りは歩き慣れていない様子で、帰りの予約時間の16時より、だいぶ早く出発点に着くかも知れないと思っていたのが、南暑寒荘に着いたのは15時30分になり、雨竜町からはバスで深川に出て、旭川には18時に着いて、ビジネスホテルで宿泊しました。

7月15日（水）9時30分発の旭岳温泉行きのバスとロープウェイで姿見駅に11時30分着。朝には晴れてでしたが、今の旭岳は雲の中です。今日は、姿見の池から裾合平の方へ行って、高山植物と大雪山の山々の展望を楽しんで、適当な時間に姿見駅に帰り、札幌まで行く予定です。

歩きだしたらすぐの所に雪が残っていますが、高山の花は沢山の種類が群落となって咲いていて、一番良いときに来たと思いました。A君は重い重いと言いながら、交換レンズのカメラを持って来て、時間を気にしないで花々を写していました。晴れていたのに、山にいる間に旭岳山頂が一度も姿

を見せなかったのが残念でしたが、旭川駅へ出て、17時20分に札幌着。

7月16日（木）札幌7時30分発函館行きに乗って久しぶりの車窓からの北海道を楽しんで、青森弘前からバスで岩木山の岳温泉に15時59分に着いき、前日に予約していた「山のホテル」に泊まりました。

7月17日（金）8時20分発のバスで八合目。リフトで九合目まで行って、ここから急峻な山登りになります。九合目から山頂までの往復はガイドブックで1時間10分位となっているので、ゆっくり歩いても2時間半後の岳温泉行のバスに乗れると思っていました。テレビのニュースで昨日の関西は台風11号の暴風雨で被害が出ていると言っていたのに、ここ岩木山は快晴で申し訳がない気持ちです。

岩木山頂1,625mからは東北の山々が全部見えて、北海道南部の山まで展望出来ます。しかし、下りには2人共時間がかかり、予定のバスには乗れませんでした。

「ちゃんと行けるか?」、「登れるか?」と心配しながら、大きなケガもなく、予定コースをすべて歩いて来ました。八合目13時45分発のバスで岳温泉。弘前、新青森、東京に出て、京都駅には22時28分に着きました。近鉄に乗る頃から大雨になって、家までの5分の道はリュックカバーを付けて、ズボンの裾がビショヌレになっての帰宅となりました。



大雪山姿見ノ池



ウリュウコウホネ

# 例会報告

例会 No	目的地	天候	月 日	担当者	参加者	記 事
2721	夏山大会 南アルプス 光岳・聖岳	晴	7月31日(金) ) 8月4日(火)	山下 幸宏	井戸 澄夫	別稿詳報

## 雑 報

### △△△ 9月（河村清名誉部員卒寿記念）集会のお知らせ

河村清名誉部員が卒寿になられたお祝いの記念集会を次のとおり開催しますので、部員多数のご出席をよろしく申し上げます。

9月9日（水）18：30～

「かごの屋」四条烏丸下ル 地下鉄四条駅6番出入口前 TEL 353-8936

参加費 3,000円

参加希望者は担当者 清水 まで連絡してください。

### △△△ 8月の集会

日 時 8月7日（金）18：30～

場 所 holly's café（ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル）

出席者 井戸、大槻、岡田茂、方山、河村、堀田、吉田、渡辺、清水 9名

内 容 例会結果、例会予告、個人山行、岳連関係報告ほか

### △△△ 7月の企画運営委員会

日 時 7月22日（水）18：30～

場 所 holly's café（ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル）

出席者 井戸、岡本義、方山、山下、吉田、清水

内 容 例会予告、岳連関係報告 ほか

### △△△ 他山岳会の会報（受贈分）

8 月 号 京都山岳、趣味の登山、青嶺、比良山岳、木雞、わっば

8・9月号 山友



△△△ 部報発送担当者からのお知らせ

職場の異動に伴い、部報の発送先、発送方法に変更がある場合は、必ず部報発送担当者（松田：高速車両課）まで連絡してください。

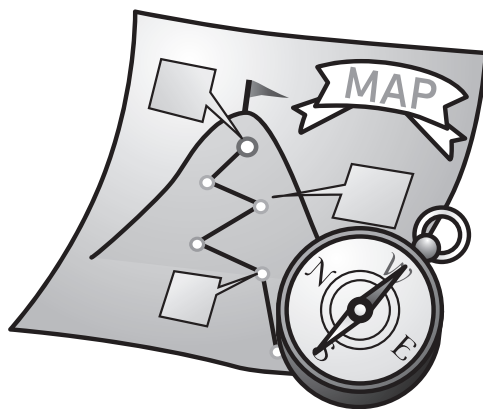
△△△ 平成27年度部費徴収のお知らせ

平成27年度の部費を徴収します。年額6,000円（部報郵送を希望の方は7,000円）です。企画委員会会計担当（岡田浩）までお届け下さい。

△△△ 平成27年度部費受領について

平成27年8月15日現在、先月号までに報告しました方々に加え、次の方から既に平成27年度部費を受領していますので報告します。

（敬称略）井上一夫、今道力、田村正弘、松田誠二、山岡昭弘、山下幸宏



想いをカタチにするお手伝い—

京都 洛北の自費出版会社

**北斗書房**

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2  
Tel: 075-791-6125 Fax: 075-791-7290  
URL <http://www.hokutoshobo.jp>

## 《 新入部員募集中 》

平成 27 年 9 月 1 日

京都市右京区太秦下刑部町 12

京 都 市 交 通 局 内

**京 交 山 岳 部**

<http://kkmc.web6.jp/>